本日は本部初供養会でございます。初供養会の祈願と合わせて成人者の祈願をさせていただきました。

今回もこのような形での供養会になってしまいましたこと、まず、皆さまにお詫び申し上げます。

未だコロナが収束せず、日本を含めて世界中で亡くなった方が更に増えておりますので、まだまだ、油断をしてはなりません。

今日は、今年の寒修行のご順序についてお話します。

なぜ今年は、寒修行のご順序が朝夕のおつとめと三部経の十二番なのかという事を話をし、更なる心をもってご修行をして頂きたいと念じております。

皆さんもよくあげている三部経の「提婆達多品第十二」ですが。提婆達多はお釈迦さまに対して法敵を働いたと言われております。しかし、お釈迦さまは、十二番でこのようにおっしゃっております。

前の世で、自分の修行を教えてくれたのが前世で出会った提婆達多である。自分が悟りを開けたのは、その邪魔をする提婆達多のお陰なのだ。ですから十二番のひとつの大きな柱は「悪人成仏」というところであり、お釈迦さまは、周りから見れば悪人である提婆達多さえも、感謝を込めて提婆達多の言動を受け入れたという意味深き話であります。

もうひとつ、この十二番の中にある「煩惱」について。

我々は煩惱を持って生活をしています。特に今、このコロナ禍の中で、自分たちはどうやって生きていこうと悩んでいる。私たちは煩惱に囲まれているのです。

どういうことかと言うと、私たちは煩惱を消し去る事ができな

いという事です。死ぬまで煩惱と生きていかなければいけない。

例えば、「お金が欲しい、お金が欲しい！」これも我々が持っている煩惱のひとつです。お金が欲しいからと、悪い方に行動してしまうとどうなるか。盗みを働く、人を殺してまでお金を得ようとする。これは、自分の煩惱に負けたという事です。しかし、私たちはそれを善い方向に持っていくことができる。働いてお金を得る、その方向に持って行くことができるという事を、この十二番で我々は教えて頂いているのです。

病気をしたくないから、いろんな薬を飲む。たくさん薬を飲んで、それで身体を壊す場合もあります。

しかし、生活習慣を見直しをする事もひとつの切り替えの手段になります。日々の生活を変える事や病気をしても感謝に変えることが大切です。今こういう大変な状況の中で、我々は煩惱に負けてしまうところが多々あります。苦しいからこそ切り替える。煩惱をいい方に切り替える事が大切なんだという事を十二番で頂いているのです。

この寒修行中にそういう心を作ろうという事で、今年のお経の順序を頂きました。

もうひとつ、この悪人成仏の十二番の中のもうひとつの柱は、「女人成仏」であります。昔、お釈迦さまの時代は女の方は成仏できなかつたといわれていました。今では考えられませんが、当時は、そのような考えがあったわけです。

当時の思想、風習で、お釈迦さまはひとつ階段を作って、女性から男性に変わってから成仏できるのだという表現をされたわけですけれども、しかし本当は、お釈迦さまの真意は、女性は成仏できるのだという事を伝えたかったと私は思っております。

妙智會は当然ながら、開教当初から女性を比較するような事はしていなかったわけです。それはこの十二番に基づいて、修行すれば成仏できる、逆に女性だからこそ素晴らしい修行ができる、このような十二番の大きな意味を頂いて、妙智會は今日まで歩んでいるのです。

男性であっても、女性であっても成仏できるのがこの法華経なのです。

私は、このコロナの中だからこそ、お導きの使命を達成して頂きたい。お導きをするという事は、導いた人を成仏させられるという事です。

導きは、素晴らしい修行です。すべての人を等しく佛さまにさせられるのがお導きです。私はまだ入会して間もないからお導きができないという方もいらっしゃる。そんなことはありません。何年から導けばいいという話は、妙智會は一切したことはありません。入ってすぐ導いて下さい。これが会主さま、大導師さまの導きに対する指導のひとつです。遠慮せずに、時を待たずに、今すぐに、こういう世の中だからこそ導きに精進して頂きたいと強く強く願っています。

私たちは、いろんな障害を越えなければいけません。

しかし、この十二番の中の深い意味をしっかり受け止めれば、そういう苦しみ、辛さ、悩みは吹き飛んでしまいます。そのためにも寒修行を完遂して、3月の七回忌法要を迎えたいと私は強く願っております。

こういうコロナの中ですけれども、感謝を持って修行をして下さい。それを最後に申し上げて、私の今日の指導と致します。